

# 「学力向上ポートフォリオ(中等教育学校版)」

## 学力向上目標

- 基礎的・基本的な知識及び技能の習得
  - ・数学の当該学年の学習内容を理解し、習得すべき式の計算ができる。  
(自校総括的評価で、A知識と理解に関する評価を平均6以上にする。)
  - ・英語の語彙力と文法を理解して活用する力を育成する。(外部模試で80%以上にする。)
- 思考力、判断力、表現力等の育成
  - ・11月の中学総合学力調査(ベネッセ)において、数学の達成レベルをすべての項目においてA以上にする。
  - ・英語の長文を読み、概要を把握して、適切に判断する力を育成する。(外部模試で80%にする。)
- 主体的に取り組む態度の涵養
  - ・国際バカロレアが提示するATLを単元計画に適切に位置づけ、自ら学習の状況を把握し、よりよく学ぶために工夫する態度を養う。(すべての生徒がATL評価で「A」に到達する。)

## 具体的な手立て

- ①各学年の状況に応じた英語・数学補習会(English Gym・Math gym)を実施する。
- ②数学の学習では、基礎知識の習得や思考力の育成を目指した数学ワークショップを土曜のLDTで開催する。また、各学年で2回以上のレポートを課し、自分の考えを深め、状況に応じた適切な数学的表現ができるように指導する。
- ③英語の学習では、English InquiryやLearning Acquisitionの授業で、長文を題材にした単元を実施する。
- ④外部模試の結果で得点の低かった分野について、単元指導計画の分析を行う。
- ⑤単元指導計画作成時に、有効なATLを特定し、「学びに向かう力、人間性等」の評価として明確に位置づけて授業内での活用を促す。

## 結果

- ・中学総合学力調査では、4段階評価(C・B・A・S)で1・2年は観点①②はA、観点③「数学的に表現し、コミュニケーションする力」はB。3年はすべての観点A。
- ・GTEC Core(第2学年)は「要点理解する問題」の問題の正答率は77%、GTEC Advanced(第3学年)の正答率は52%。  
英検 IBAでは、1年(E) 91.6%、2年(D) 90.1%、3年(C) 84.7%。
- ・3G Project(総合的な学習の時間における探究プロジェクト)ではATLスキルの応用の8点満点中1年は平均4点、2年は平均5.5点、3年は6.5点

## 今年度の振り返り・次年度に向けて

ATLスキルの活用に関する意識を高め、学習目標を意識して、自ら学習を調整したり、粘り強く取り組んだりするようになってきた。思考力・判断力・表現力においては、英語の長文のGlobal Understandingの力が伸び、数学における現実の問題と数学を結び付ける力や数学的に考察・処理し、振り返る力は伸びた。

MYPの最終年次(中等4年)がスタートすることから、MYPの4年間における指導計画を改善するとともに、学校教育目標に基づき、各教科の長期的目標を明確に設定する。また、教育データを指導と学びの向上に活かしつつ、探究活動を通して自律した学びの充実を図る。

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

## ＜本年度の学力向上基本方針＞

大宮国際中等教育学校は、よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指しています。そのため、学校生活のあらゆる機会を通して、未来の学力を備え国際的な視野を持つ生徒の育成を目指します。

## 4月 学力向上目標①

さいたま市学習状況調査の「家で、自分で計画立てて勉強していますか」の項目について10pt向上させた値にする。

## ＜目標達成に向けた学力向上策＞

## 策1

学習の方法（IBのATL）を組織的かつ計画的に全教科で取り組み、各教科における「主体的な学び」を目指す指導方法を工夫する。

開始期日

6月中

## 具体的な手立て

- ・各学年でのATL（approach to learning）について計画的な指導方法の実践
- ・LDTや3G Projectで目標設定や計画の立て方の指導
- ・三者面談で生徒が学習の振り返りを発表するポートフォリオ検討会の実施

## 10月

## 策2

外部試験の結果から、国語、数学、英語のそれぞれの課題を分析して生徒、保護者、教員間で共有する。また、各教科の成果と課題を全職員で把握する。

開始期日

2学期

## 具体的な手立て

- ・外部試験の結果を分析し、進路だより、三者面談や職員研修で共通理解を図る。
- ・校内研修会で、教科主任が各教科の成果と課題を発表し、教職員全体で共有する。
- ・各教科のワークショップや補習等を推進する。

## 2月

## 本年度の振り返り

ATLを全教科で活用することで、生徒が自らの学習状況を客観的に把握し、自己管理することができた。

達成度

70%

## 3月

## 次年度の学力向上目標の柱・ポイント

概念学習・探究学習の共通理解と計画的な実施  
教科横断的な取り組み実施のための共通理解と計画的な実施

## 「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

### ～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

#### ＜本年度の学力向上基本方針＞

- 1 有意義な学校生活を送るために必要となる基本的な学習習慣を身に付けるとともに、概念学習の要点や実際の取組 について理解する。学校における様々な活動の関連性に気づく。
- 2 一期生としての自覚を胸に、互いへの尊重と支え合う精神にあふれた、開かれた学習環境作りに責任をもって取り組む。学校コミュニティのすべてのメンバーと良好な人間関係を築く。
- 3 新しい学校生活に慣れ、様々な学習経験を通して肯定的な自己イメージを持つとともに、失敗は学ぶ機会であることを理解する。
- 4 他者の意見や考えに耳を傾け、理解しようとする。新しいことや難しいことにも積極的に挑戦する。

#### ＜本年度の学力向上策＞

- 1 「主体的・対話的で深い学び」を促す学習環境の工夫と整備
  - 各教科で「見方・考え方を働かせる」とする学び方を学ぶ学習指導の実践
  - 概念に基づいた探究型による指導と学習
  - 各教科におけるパフォーマンス評価の研究と実践
  - 3G Project や LDT などの生徒が主体となる時間の設定と実践
- 2 人間関係構築力を育成するための体験的な学習活動の工夫と実施
  - 円滑にコミュニケーションを図るためのスキルを毎朝の ALL English で実践
  - 各教科で「コミュニケーションスキル」「社会スキル」「自己整理スキル」の意図的な指導と実践
  - 主体的な奉仕活動の実践
- 3 一人ひとりの生徒の実態に応じ、ニーズに合った指導と学習の工夫と取組
  - ICT 環境の積極的な活用
  - 生徒が主体的に自らの学習方法の工夫・改善
  - 各教科で工夫した探究型の指導の計画と実践
- 4 様々な場面で幅広い人々と交流する機会の設定
  - 各教科の授業で発表や協議する機会の設定
  - 外部講師や外部との積極的な連携

## <本年度の振り返り>

- 1 ○ 各教科で ATL(Approach To Learning)を意識した取り組みを行い、全体教科会で共有し、カリキュラムマネジメントを行いながら、教育活動を行った。
  - 発展的な問題に挑戦したり、知識・技能を活用する問題に取り組んだりするなど、最後までやり抜こうとする態度をもって、生徒は課題に取り組んだ。
  - 各教科の授業において、「わかった」、「できた」という実感を持っている生徒は、90%以上となり、満足感の高い評価となった。
- 2 ○ 他者と共に学び合う雰囲気を醸成し、教科以外の活動においても協働的な取り組みを頻繁に行うことで、コミュニケーションスキルを育むことができた。
  - 「学校に行くのは楽しいですか？」に対して、97.4%の生徒が肯定的に答え、学校での教育活動に満足している結果となった。
  - 「Service as Action」として、生徒は年間を通して外部のボランティア活動に参加し、地域に貢献するための奉仕活動を行った。
    - ▼ 「家庭学習や予習について計画的に取り組んでいるか？」に対して、4割の生徒が否定的な回答した。今後は、自ら計画を立てて学習に取り組めるように指導する。
- 3 ○ 一人ひとりの生徒にタブレットパソコンを持たせた結果として、各教科で効果的に活用していると思っている生徒は90%以上の結果となった。
  - 「学校が適切に学習を支援していますか？」に対して、90%以上の生徒が肯定的に答えた。
    - ▼ 数学の関数における基礎・基本スキルがまだ身に付いていない。今後は、改めて基礎・基本が身に付くさらなる探究型の学習の指導計画を工夫する。
- 4 ○ 「NPO フェア」や大学との連携などを通して、外部の講師や市役所や企業の専門家とかかわる機会を、多く設定したことで将来の夢をイメージし、進路指導・キャリア教育につなげることができた。